

## 第5回 ぐんまの中小企業と若者の交流会 Report

☆1月28日(土)13:30~15:30 ジョブカフェぐんま 高崎センター  
☆参加企業 共和産業株式会社 5人 若者参加者 10人

### 交流会の流れ

企業側参加者の紹介を兼ねて、最初に共和産業(株)の鈴木宏子代表取締役社長、続いて森越康聡さん(第二製造部製造二課)、清水治美さん(財務部経理課)、吉田崇さん(業務部業務課)、青木友彦さん(業務部営業課)からメッセージをいただいた。休憩後、企業側参加者と若者の意見交換を行い、最後に、企業側の5人の方々と、直接・個別に意見交換を行うフリータイムを設けた。

### 企業側からのメッセージ

#### <鈴木社長>

共和産業の概要についてパワーポイントにより説明。ISO9000、14000(国際標準機構)、TPM(総合生産保全)について言及後、量産と変種少量生産の双方を踏まえた会社の取組みについて紹介。「とりわけ、Q(品質)、C(原価)、D(納期)が極めて重要となる。不良品は、PPM(100万個に1個)と言うレベルでの対応であり、そこに到達するためには創業以来65年の歴史の成果が生きている。」と発言

#### <森越さん>

現在、携わっている仕事についてパワーポイントにより説明。「試作品の制作は、多品種少量生産であり、多くの人たちの協力を必要とするので、コミュニケーションの重要性を痛感している。つらいこともあるが、仕事は楽しくなければと思っている。学生時代からものづくりやF1に興味があり、その点が入社の大きな動機となった。」と発言

#### <清水さん>

「入社して8年目。経理を担当しているとともに総務として受付を担当。受付は、会社の顔であり、自分の対応で会社の印象を左右してしまうので、大きなプレッシャーを感じている。経理の数字は、100%の正確さを要求される。給与の支払日は、間違いがなかったかと、大変緊張するが、責任があり、やりがいにもつながっている。」と発言

#### <吉田さん>

「生産管理に携わっているが、顧客から求められた納期の厳守が最重要。様々な要因から生産が遅滞し、厳しい局面に遭遇することも度々だが、関係者の理解と協力により、それを乗り越えたときに、やりがいを感じる。はじめはうまくいかないが、何事も自信をもって対応することが重要」と発言

#### <青木さん>

ジョブカフェを通しての「有期雇用制度」で採用となった経緯と採用となったことで経済的に両親から自立でき、新しい人間関係ができたことが大きな変化であると発言。「自分の就職活動の経験から、ジョブカフェに依存しすぎず、情報収集は自ら積極的にしていくことが大切」と強調

## 意見交換会

- 10年後の会社の状況についての意見交換  
→企業側は、「更なる海外展開を考慮せざるを得ないと考えている。ただし、海外展開をしていく理由は、コストが安いからであり、その上で高付加価値を持った製品づくりをしていかなければならない。」と、発言
- 製品の品質向上のために重点的に取り組んでいることについての意見交換  
→企業側は、「結果も大事だが、プロセスが極めて重要と考えている。一人ひとりの社員の姿勢が製品に反映されてしまう。このため、不良品が出たときに、その原因を分析し、対策を検討し、該当部署だけでなく、他の部署を含めて情報を共有する。社員からのワンポイント提案制度も活用しながら、そうした蓄積が品質向上へとつながっていくと思っている。」と、強調
- 理工系でなくても、社内で活躍できるポジションはあるかについての意見交換  
→企業側は、「現状は95%が理工系出身者であるが、文系出身者でも担当してもらう部門は、勿論ある。理工系出身者でも大学時代で学んだ内容では、入社後ほとんど役立たない。従って、理工系、文系を問わず、入社してからが、スタートである。」と、強調
- 社員の採用を決定するに当たっての重要なポイントについての意見交換  
→企業側は、「①やる気 ②ものづくりに興味があること ③受身でなく、自分をいかに売り込むかが大切 ④選考に当たっては、作文を書かせるが、ここのところテーマは「何故、ものづくり企業を志したのか」である。作文の中での誤字、ひらがなばかりのものは、気になる。 ⑤履歴書は、自筆で書いて欲しい。」等と、発言

## 企業側出席者からの若者への一言

- <森越さん>自己分析をすること。会社へ入ってからが本当のスタート  
<清水さん>「人」と「もの」との付き合いとなる。双方に興味を持つこと  
<吉田さん>何事も挑戦  
<青木さん>自分自身が今やっていることをしっかりと見つめなおすこと

## アンケートから見た若者の反応

- 参加者が、ほぼ満足した様子が窺える。また、鈴木社長に出席していただいたことで、企業が、いかに真摯に、厳しく仕事に向き合っているか、が伝わり、参加した若者に極めて強いインパクトを与えたように感じる。
- 熱いメッセージを若者に届けてくれた社長や社員の方々の話を聞き、企業で働くということの意義、心構えを改めて認識するとともに、群馬県内にも極めて高い技術力を有する中小企業が存在するということが理解でき、今後の就職活動に際し、大変参考になった様子が窺える。この点は、アンケートの中で、今回のような交流会をもっと開催して欲しいという感想が多く寄せられたことから窺える。

### 企業側の反応

- 若者にメッセージを伝えるということで、改めて自分の仕事について考えるよい機会となった。一方で、分かりやすく説明することの難しさを感じ、自分に足りないもの（コミュニケーション能力）を知るよい機会ともなった
- 参加者のひたむきな姿勢を見て、自分自身が就職活動をしていた時期を思い返し、初心に帰るとともに、新たな目標を立てることができた
- 意見交換の際の質問内容等から参加者の就職に対する意欲、真剣さが強く伝わってきた
- 製造業なので参加者は技術系の人が多いと想像していたが、ほとんどが文系であったのが意外であった
- つい先日まで聴講する立場だったので、自分が人に話をする立場に立つことが新鮮であった。ただ、自分が話した内容が自分が意図したことと別の内容に取られてしまったかもしれない、申し訳なく思っている。社長や先輩方の説明は準備も相当かけていると感じ、聞いてみる価値は十二分にあると思った、こうした交流会の存在が、もっと多くの若者に知ってもらえたらと思った

### コーディネーターの所感

- 今回の交流会は、「ぐんまの中小企業と若者の交流会」の最終回ということもあり、企業選定に当たっては、「ものづくりぐんま」を正に象徴する、極めて高い技術力を持つリーディング企業にお願いしたが、お忙しい中、鈴木社長にも御出席いただき、大変充実した中身の濃い内容のものとなった
- 県内には高い技術力を有し、世界に進出している中小企業があるということ、若者に知ってもらい、今後の就職活動に活かして欲しいとの思いがあったが、そのねらいは、十分実現できたと思っている
- それは、鈴木社長自らの交流会への出席により、企業経営における厳しさ（ミスがなく、しかも高品質の製品づくりへ向けた取り組みやグローバル化に向けた対応）とともに、社員一人ひとりの意識が、いかに企業の発展において重要かを、熱く語っていただいたことが大きかったと感じている。また、ジョブカフェぐんまを通じて、社員として採用された青木さんの出席は、当日の参加者に、希望と勇気を与えてくれたと確信している
- 若者側の参加者も、これまでの交流会と異なり、現役の学生が多かったことも、特徴的であった
- 最後に、『商品・製品のことは、「bads（バズ）」でなく「goods（グッズ）」と言う。「Good people create goods」である。「good people」が「goods」を生み出すのである。成果物としての商品は、それに関わる一人ひとりの全てが、見事に反映してくる。』と語った鈴木社長の言葉が、強く印象に残った

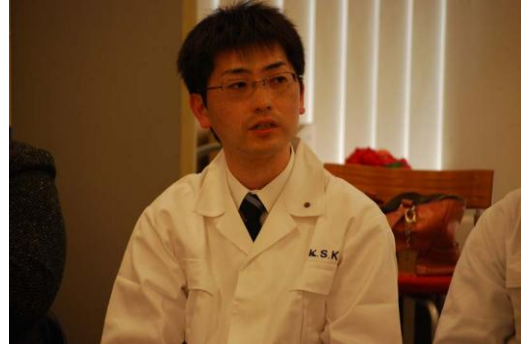
### <会社プロフィール>

**共和産業株式会社** 1946年創業。65年の長い歴史をもつ精密機械加工の専門メーカー。液晶、半導体装置等の精密加工とともに、ロケット・航空機部品、次世代自動車の開発試作部品及びエンジン・足回り部品、カーエアコン用コンプレッサー部品等を生産。2010年、グッドカンパニー大賞優秀企業賞受賞

第5回 ぐんまの中小企業と若者の交流会の様子



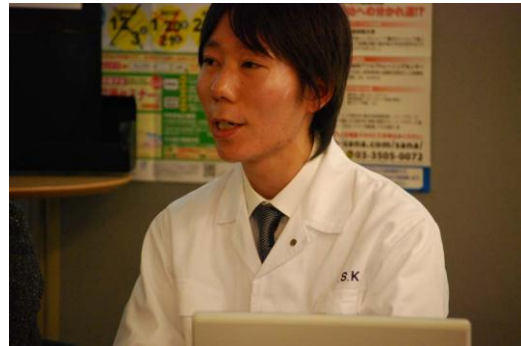
鈴木社長からのメッセージ



吉田さんからのメッセージ



清水さんからのメッセージ



森越さんからのメッセージ



青木さんからのメッセージ



意見交換会